

事例報告 H28-3

団体名： 森と水の源流館・川上村村立川上小学校（奈良県）

プログラム名： 水のつながりプロジェクト		
(1) プログラムの目標	大和平野及び水源地域のさらなる友好関係を育むことを目的に、大和平野及び水源地域の小学生がそれぞれの地域で見学、体験を行い、交流することで、水源地域と大和平野が吉野川分水で繋がっていることを感じて大和平野の地理、歴史、及び水源地の役割を学習する。	
(2) プログラムの概要	当プロジェクトは、3回に分けて実施した。第1回（6月15日）は橿原市にて田植え体験と水田の生き物の観察、第2回（9月14日）は、川上村にて環境学習と川の生き物しらべ、第3回（10月20日）は橿原市にて稲刈り体験を実施。	
(3) プログラムの展開		
時間数	プログラムタイトル	
	活動内容	指導・支援の方法、ポイント等（教材等）
in（～の中で）、about（～について）、for（～のために）の視点で活動内容を区分		
1回目 2時間	田植え体験とたんぼの生き物観察	
	川上村を源流とする吉野川からつながる吉野川分水の受水地である橿原市の水田にて田植えと生き物観察を行う。 	かわかみ（川上小学校）の児童には、いつも見ている川の水が、分水でたんぼの水になっていることを、かわしも（香久山小学校）の児童には、川上村の水がこの場所に来ていることを想像させる。色々な生き物のはたらきが米作りに役立っていることを気づかせる。 
体験・観察		
2回目 5時間	源流の水生物観察と森と水の源流館、大滝ダム見学	
	川上村の吉野川源流部の支流である音無川にて、水生物を採集して水質を調べ、講師（専門家）による環境学習を行う。森と水の源流館、大滝ダム学べる防災ステーションの見学（ガイドツアー）を行う。 	源流を流れる川の水について、水の冷たさ、美しさなどを川に入って水生物を採集することによって体感的に学びつつ、生き物の種類と水質の指標性を専門家から学び、水源地を守ったり、水を汚さない取り組みや上手に使う取り組みについて施設で学習する。 
体験・観察		
3回目 2時間 20分	稲刈り体験	
	1回目に田植えをした水田にて、稲刈り作業を行う。 	水のめぐみがお米になったこと、コメ作り、収穫が大変なことを体験を通して理解する。後日、収穫したお米を食べる。 
体験・観察		

(4) プログラムでの連携内容

(教育機関、地域、団体等での、①連携・協働先、②役割分担、③具体的な連携・協働の内容)

大和平野土地改良区
川上村
公財)吉野川紀の川源流物語
(森と水の源流館)

- ・プログラム作成・実施
- ・連絡調整
- ・報告書作成

提案



要望

川上村立川上小学校
榎原市立香久山小学校

- ・学校内の調整
- ・時間の調整

(5) 活動の分析 (学習指導要領との関連または森林環境教育の視点) 上位3項目

教科・項目、視点	学習内容
1 感性的経験	田植え、稲刈りを通じて、農作業の大変さを経験し、お米の大切さを学ぶ。 水生生物の採集を通じて、源流の水の冷たさなど自然の美しさを知り、生き物観察の面白さを知る。
2 自然的特性	田んぼの生き物の解説により人間と野生生物の関わりを知る。 源流の水生生物の観察から、水質判定ができることを知り、水を汚してはいけないことを学ぶ。
3 多面的機能	田んぼのお水が源流の川上村の森とつながっていることを知り、源流の森の自然環境を守る大切さを知る。

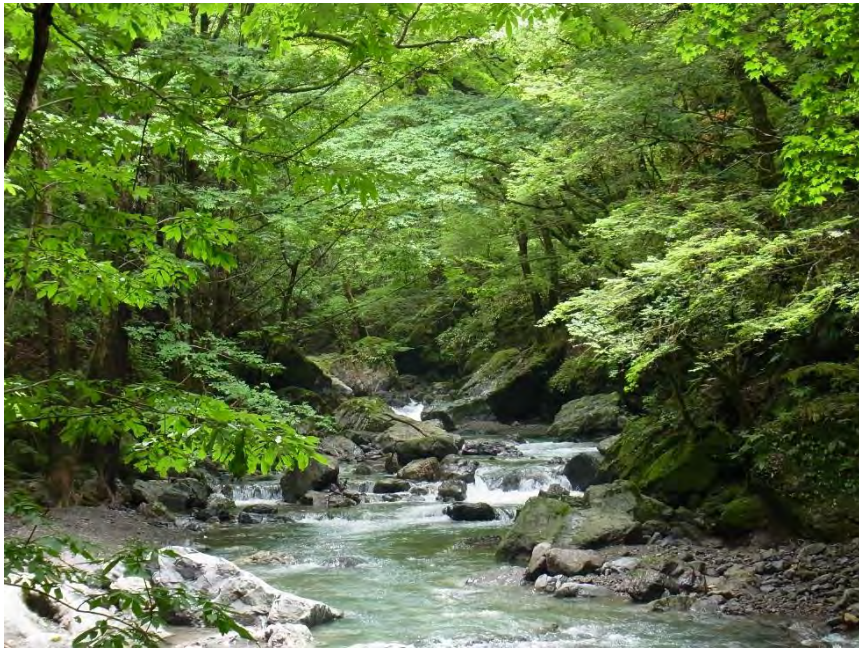
(6) 活動の分析 (資質・能力の視点)

項目	ESDの要素(7つの能力・態度)の視点から、もっとも重視する視点の内容を記載
①生きて働く「知識・技能」の習得	田植えや稲刈りの作業は、農家でないとできない体験を経験する。 普段何気なく接している水を森の多様な生き物の働きで生まれていることを知る。
②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成	源流の生き物調査などを通して、環境を守るための取り組みについて考える。
③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養	田植え、稲刈りを通じて、農家の苦勞を体感的に学び、食べ残しのことや米作りに興味を持つ児童がいた。 源流部での水生生物の観察を通じ、講師より生き物と水の関係が大切なことを学んだ。これによって、水を汚してはいけないことをわかりやすく伝えていった。

(7) 実施後、参加者の変化

田植え、稲刈りの大変さを理解した。
田んぼの生き物が苦手な児童もいたが、そんな生き物でも田んぼの役に立つものがあることが分かった。
お米(食べもの)の大切さを理解した。

「吉野川源流－水源地の森」の取り組み



吉野川源流－水源地の森の生き物



トガサワラ



キヨスミウツボ



ヒロハシノブイトゴケ



ニホンカモシカ



ナガレヒキガエル



オオセンチコガネ

「吉野川源流－水源地の森」

川上村は川上宣言を具現化するため、吉野川・紀の川源流、三之公天然林約740haを購入し・保全しています。

森の中では今、この瞬間も様々な動植物が生息・生育し、森林生態系を支え、私たちに森のめぐみをお届けしています。

水源地の森を守るために私たちができること

多様な主体との相互理解・連携を進めています。



自然生態調査

水源地の森の自然の状況を科学的に調査・記録し、保全に役立てます。



水源地の森ツアー

水源地の森の大切さを、わかりやすく伝えます。この参加者の中からもボランティアスタッフなど“森の担い手”が育っています。

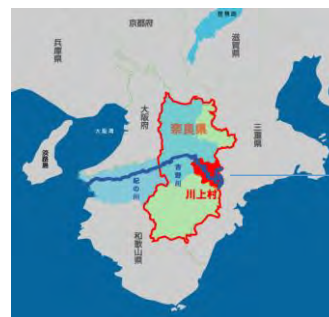


学校・教育機関との連携

次代を担う子どもや若者たちに自然の大切さを伝えることはとても大切なことです。小学校から大学まで多様な体験プログラムを展開しています。

川上宣言

- 一、私たち川上は、かけがえのない水がつくられる場に暮らすものとして、下流にはいつもきれいな水を流します。
- 一、私たち川上は、自然と一体となった産業を育て山と水を守り、都市にはない豊かな生活を築きます。
- 一、私たち川上は、都市や平野部の人たちにも川上の豊かな自然の価値にふれあってもらえるような仕組みづくりに励みます。
- 一、私たち川上は、これから育つ子供たちが、自然の生命の躍動にすなおに感動できるような場をつくります。
- 一、私たち川上は、川上における自然とのつきあいが、地球環境に対する人類の働きかけの、すばらしい見本になるよう努めます。



川上村村有林「吉野川源流－水源地の森」は、条例により一般の立ち入りを制限しています。原生林をそのまま保全するため、歩きやすい遊歩道なども設置していません。一般の入山は公募により実施する「水源地の森ツアー」など環境学習ツアーをご利用ください。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



奈良県吉野郡川上村宮の平
 電話 0746-52-0888
 ファックス 0746-52-0388
<http://www.genryuu.or.jp/>

源流学の森づくり 奈良県 川上村

吉野林業が守った吉野川源流域の原生林



室町時代より植林・育林による林業が行われた川上村では、奥山の伐採の必要がなくなり、吉野川源流部に大規模な原生林が最近まで残されてきました。また、人工林でも伝統的な施業管理の下、多様な生物多様性が維持されてきました。

源流域でのパルプ材開発



1980年代から吉野川源流域でパルプ材開発により、最後まで残されていた大規模な原生林の伐採が進みました。その後、放置され、谷が埋まるなど源流域の自然環境が悪化しました。

源流学の森づくりをはじめました(2002年～)



2002年より伐採跡地でボランティアによる森づくりを展開。基地となる小屋もみんなで作りました。川上村の森ではたらいってきた達人に、森の知識を聞きながら、上下流の交流を図り、山村の民俗知識を後世に残す場、自然観察の場としても展開しています。



やぶのように密になった細い木々の森



下層植生が見られる里山のような森



土砂崩壊が止まらない斜面



芽吹き of 岩で再生を促す

※残っていた原生林約740haは、川上村が平成11年～12年に購入し、「吉野川源流一水源地の森」と名付け保全しています。

流域・企業との連携もすすめています

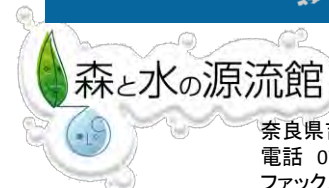
吉野川・紀の川流域市町村や企業と連携した、森づくり活動も展開しています。



和歌山市民の森づくり



関西電力労働組合かわかみの森づくり



奈良県吉野郡川上村宮の平
 電話 0746-52-0888
 ファックス 0746-52-0388
<http://www.genryuu.or.jp/>